

No.31号

社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合 〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3
国立教育会館内 Tel 03-3580-0608

生涯学習審議会の「今後の社会の動向に 対応した生涯学習の振興方策について」 の答申を読む

(社)全国社会教育委員連合会長

天城 勲

答申は、第一部で生涯学習の基本的考え方、第二部で当面重点的に取り組むべき四つの課題として、(1)社会人対象のリカレント教育、(2)ボランティア活動の充実、(3)青少年の学校外活動の充実、(4)現代的課題の学習機会の充実をあげている。第三部は四つの課題の充実、振興方策、第四部は生涯学習の振興となっている。

社会教育の振興については、既に昭和四十六年、社会教育審議会から「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」の答申があり、人々の生活や社会の変化と学習需要の多様化に対応して社会教育を幅広くかつ生涯にわたる営みとしてとらえることを提言している。その後、臨時教育審議会が生涯学習を強く唱導したことから一時社会教育は生涯学習のなかに埋没してその存在意義を失ったかの疑惑を生じた。生涯学習とは生涯にわたる心身ともに健やかに充実した人生を送るために人間特有の学習能力によつ

て人々が積極的に人生に挑戦する必要があるという基本理念を示したものであって、従来からの学校教育をはじめ色々な教育システムに代る新しい教育制度を構想するものではない。臨教審が生涯学習理念をあらためて強調したことは、むしろ社会教育にとつては力強い支援であり、活性化の好機と受取るべきである。このような考え方で答申を読んで感じたことの若干を率直に述べてみたい。

一は、生涯学習論においては、人々が自発的意志に基づいて学習することを基本とすることをくり返し強調しており、学校や社会の中での意図的・組織的な学習活動だけではなく、スポーツ、文化、趣味、ボランティア活動などでも生涯学習は行われるものとして学習活動の場、機会、タイプを広くとらえている。社会教育においても、戦中、戦前の教導的、動員的な傾向の反省から人々や地域の自発的活動を重視してきており近年その学習活動も拡

大してきているので、最近の生涯教育論の立場は大いに歓迎するところである。

二は、社会教育においては活動の場として公民館はじめ各種の社会教育施設の整備や子供、青少年、女性、高齢者等に関する各種の団体活動や、年齢、性別を超えた目的別団体活動を重視してきている。前者の施設については学習の場として需要は一層増大する。また、学校五日制の実施に伴い校舎、家庭も広く学習の場としてその多機能化が求められる。またいかに個人的、自発的学習を重視しても組織的、団体的な学習活動の意義は失われまい。自発的な「参加」の意義やとくに答申が重視する「現代的課題」についての「学習機会の提供者」については十分その意義を考える必要がある。

三は、ボランティア活動については、ボランティア活動そのものが自己開発、自己実現につながる学習、学習の成果を生かし深める実践活動、そして人々の生涯学習を世話し、支援するボランティア活動の三つの視点から答申はこれを重視している。社会教育活動においても近年ボランティア活動を重視し各地方での振興につき種々工夫が重ねられてきている。以上気のついた三点だけにふれたが、今回の答申をみて、社会教育が生涯学習展開のなかで中核的役割を果たすべきことがあらためて痛感される。

第34回全国社会教育研究大会をめざして

現在千葉県においては、来る11月11日より3日間にわたり開催される第34回全国社会教育研究大会の開催をめざして、その準備に大変意欲的に取り組み、着々と進めているところです。

この全国大会も、昭和34年に東京において開催されたのが第一回全国大会であり、この年に、現在の(財)全国社会教育委員連合の前身である全国組織として、全国社会教育委員連絡協議会が結成されましたので、今年は結成30周年という大きな節目を迎えた年の記念すべき全国大会にあたります。

さて、千葉県は首都圏にあつて、目覚ましい発展を続け、21世紀に向つて大きな期待を集めています。

大会関係者も、全国からご参加いただく社会教育関係の皆様方に、参加してよかつた心から喜んでいただける全国大会となるよう懸命な努力を続けています。

昨年高知県において開催されました全国大会最終日には、次期開催県代表として平津昭知千葉県会長が次のような挨拶をされています。

「平成四年度は千葉県におきまして全国大会を開催することになり、私としては万端の準備を進めてゆく所存でございます。千葉県を簡単に御紹介申

しあげますと、いま千葉県は東京のベッドタウンとして、人口も五五〇万人を越える大きな人口の増大内になつてまいりました。そして、御案内のよう

に開催地である県都千葉市は、来年四月から、政令指定都市に昇格する運びとなつておるわけでございます。(本年四月一日より千葉市は政令指定都市として発足) その県都千葉市にある文化会館を中心に大会を開催する予定でございます。いま知事も生涯学習には非常に積極的に取り組んでおられますので、今年の方針として「さわやか千葉・五ヶ年計画」というものを打ち

出しまして、その中に、生涯学習推進の一項を入れて積極的に取り組んでおるところでございます。皆様方の御指導と御協力を心からお願い申し上げます。また、国際的施設として幕張メッセ、東京ディズニーランド、成田山新勝寺等々県は多彩な楽しさがいっぱいあります。千葉においては際はごゆつくりしていただきたいと存じます。」

次に、大会開催要項を要約します。

◆大会趣旨

全国の社会教育委員をはじめ、社会教育関係職員及び社会教育関係団体の

会員等が一堂に会し、各地域における社会教育活動の状況や研究の成果を交流しあい、生涯学習の観点にたつて社会教育の今日的な課題の解決をめざして研究協議を行う。

◆研究主題

「新しい課題に対応する社会教育のあり方を考える」

―であいい、ふれあいい、まなびあいいをもとめて―

◆期日・会場

平成4年11月11日(水)・12日(木)・13日(金)の3日間
千葉県文化会館

◆主催

社団法人全国社会教育委員連合
千葉県社会教育委員連絡協議会
千葉県教育委員会
千葉市教育委員会

◆後援

文部省 千葉県 千葉市 千葉県地
区社会教育連絡協議会 財団法人全
日本社会教育連合会

◆大会日程

〔第一日〕開会行事 13時～14時

・主催者挨拶・表彰式典
・祝辞 文部大臣 千葉県知事
・歓迎のことば 千葉市長
シンポジウム 14時～15時30分

〔学校週五日制と生涯学習〕

〔第二日〕9時30分より15時

部会別研究協議 10部会で構成

〔第三日〕9時30分より12時

記念講演 株式会社龍角散代表取締役社長 藤井康男氏

◆部会名と研究主題

◆大会宣言決議・開会行事

- ①学習機会の拡充 ②公的機関が提供する学習機会の質と量を考える
- ③生涯学習施設の整備 ④生きがいやコミュニティづくりに係る社会教育施設の在り方を考える
- ⑤国際化への対応 ⑥国際理解教育を考える
- ⑦文化・スポーツ活動 ⑧ふるさと文化の伝承・創造と生涯スポーツの在り方を考える
- ⑨生涯学習推進体制の整備 ⑩地域の実態を生かした生涯学習の推進体制の整備を考える
- ⑪学習情報・学習相談 ⑫学習情報・学習相談機能の充実強化をどう図るかを考える
- ⑬家庭教育の充実 ⑭これからの家庭教育の在り方を考える
- ⑮青少年教育の充実 ⑯青少年の学校外活動の充実方策について考える
- ⑰高齢者教育の拡大 ⑱高齢者の生きがいづくりと健康増進のための社会教育活動を考える
- ⑲人権尊重・同和教育の定着化 ⑳差別しない・させない・許さない明るい社会をめざす社会教育活動を考える

地区研究大会に参加しよう

平成4年度全国大会は前頁の通り、千葉県におきまして着々と準備が進められていますが、いっぽう各地区（ブロック）別の社会教育研究大会も、それぞれ開催県において開催にむけて、鋭意準備が進められています。

各地区大会とも年ごとに参加者が増加の傾向にあり、内容も充実してきてます。このことは開催県のきめ細かな運営、配慮等もありますが、生涯学習推進の機運が参加者の大会参加を盛りあげていると考えられます。

社会教育委員は大会に参加して、他の市町村における社会教育委員の活動を、まず知ることに意義を十分に理解する絶好の機会でもありますので、ぜひとも一人でも多くの社会教育委員のご参加をお願いいたします。

本年度の地区大会の開催県の担当者会議において発表されました各地区大会の開催要項にもとづいて、期日、会場、研究主題、分科会構成等要約します。

る、社会教育を考える―

部会の構成

- 第1部会 生涯学習
 - 第2部会 青少年教育
 - 第3部会 成人教育
 - 第4部会 高齢者教育
 - 第5部会 スポーツ
 - 第6部会 文化
- 講演「生きること。学ぶこと。」

東北地区研究大会―福島県

期日 10月15日(木)～16日(金)
会場 福島県飯坂市「ホテル聚楽」
研究主題「生涯学習社会に対応する社会教育のあり方」
分科会の構成

- 第1分科会 社会教育行政
 - 第2分科会 学習情報提供
 - 第3分科会 学社連携
 - 第4分科会 ボランティア育成
 - 第5分科会 地域の活性化
- 講演、アトラクション、懇談会等

関東甲信越静地区

研究大会―山梨県

期日 9月24日(木)～25日(金)
会場 山梨県「石和グランドホテル」
研究主題「幸せに生きるための生涯学習を求めて」―これからの社会

―学習の輪を広げ、ともに生き

教育はどうあるべきか―

- 分科会の構成
 - 第1分科会 生涯学習（推進体制）
 - 第2分科会 まちづくり
 - 第3分科会 青少年教育
 - 第4分科会 成人教育
 - 第5分科会 高齢者教育
- シンポジウム「生涯学習推進のための社会教育は、いかにあるべきか」

東北北陸地区研究大会―岐阜県

期日 10月21日(木)～22日(金)
会場 大垣市・スイトピアセンター
研究主題「生涯学習時代における社会教育のあり方を考える」
分科会の構成（主題）

- 第1分科会 生涯学習のまちづくり
- 第2分科会 人生80年代の成人教育
- 第3分科会 学校週5日制と青少年の育成
- 第4分科会 望ましい家庭教育
- 第5分科会 差別のない社会を実現する人権教育
- 第6分科会 健康で活力ある生活を送るための生涯スポーツ

講演「江戸時代の旅と文学」

近畿地区研究大会―京都府

期日 7月30日(木)～31日(金)
会場 京都府会館
研究主題「生涯学習社会を築くため

の社会教育のあり方」

- 分科会の構成
 - 第1分科会 生涯学習1
 - 第2分科会 生涯学習2
 - 第3分科会 青少年教育
 - 第4分科会 高齢者教育
 - 第5分科会 同和教育
- 講演、全体会等 参加者一、三〇〇名

中国・四国地区研究大会―岡山県

期日 6月10日(木)～11日(金)
会場 福武書店本社ビル大ホール
研究主題「生涯学習社会の実現をめざした社会教育の在り方」
分科会の構成

- 第1分科会 青少年教育
- 第2分科会 成人教育
- 第3分科会 社会体育
- 第4分科会 同和教育

九州ブロック研究大会―福岡県

期日 9月17日(木)～18日(金)
会場 福岡市民会館
研究主題「生涯学習時代に即応する社会教育のあり方と社会教育委員の役割」
分科会の構成

- 第1分科会 生涯学習の推進体制
- 第2分科会 学習機会の提供
- 第3分科会 学習情報提供相談体制
- 第4分科会 青少年の健全育成
- 第5分科会 同和教育の推進
- 第6分科会 社会教育関係団体育成

社会教育委員及び会議の活性化について（通知）

文部省生涯学習局長名

文部省生涯学習審議会社会教育分科審議会においては、これまで社会教育の指導者の在り方など社会教育に関する諸制度についての審議が進められておりますが、このたび左記のとおり、社会教育分科審議会報告「社会教育委員制度について―社会教育委員及び同委員の会議の活性化について―（平成4年5月27日）」が取りまとめられましたので、とくに全文を掲載してご参考に供します。

(1) 社会教育委員及び同委員の会議の職務

ア 社会教育委員の会議においては、地域における社会教育に関する諸課題に関し、社会教育の短・中期的な課題はもとより、長期的な課題も積極的に取り組むこと。

イ 社会教育委員及び同委員の会議の活動に関して研究調査機能を充実に、地域の諸施設・諸活動の視察、地域住民の意識調査の実施、地域懇談会の開催等、広報・広聴活動を活性化すること。

ウ 市町村の社会教育委員はもとより、都道府県の社会教育委員においても、青少年を取り巻く環境の変化や学校五日制の導入を契機として、自然体験活動、地域活動、ボランティア活動等の青少年の学校外活動の充実が求められていることにかんがみ、青少年教育に関する諸課題に一層積極的に取り組むことが望まれること。

(2) 会議の運営等

ア 多様化・高度化した地域住民の学習需要に適切に対応できるよう、定例会はもとより、臨時会や課題別に小委員会を開催するなど、社会教育の会議を活性化すること。

イ 社会教育委員の会議は、必要に応じて、各社会教育施設に置かれる諮問機関等と連絡・調整を図るなど、社会教育の総合的・効果的な推進に取り組むこと。

二 社会教育委員の組織、研修

社会教育委員の責務の重要性にかんがみ、社会教育委員の選任等については、次の点に留意する必要があること。

(1) 社会教育委員の選任

各教育委員会においては、社会教育委員の選任に当たっては、社会教育に関心と熱意を有する社会教育委員にふさわしい人材の確保に努めること。

と。その際、社会教育委員の構成については、比較的年齢の若い人や女性の登用に留意するとともに、地域の状況に応じ、民間教育事業者、マスコミ関係者、大学等関係者、企業関係者、ボランティア活動関係者等広く各分野から選任すること。

(2) 社会教育委員の研修

社会教育委員が適切にその責務を果たすためには、地域の生涯学習の現状や当面する社会教育行政の課題等に関し、十分な理解を有することが必要であり、このため、教育委員会事務局は積極的な情報提供、事務局職員等との研究会の開催などを考慮すること。特に、新任の社会教育委員に対する研修の実施や研修内容の充実を図ること。

三 生涯学習審議会等との連携

各地方公共団体においては、「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」（平成2年法律第71号）に基づき、生涯学習審議会等の設置が進められているところである。

生涯学習審議会等の構成員として社会教育委員を参画させるなど、生涯学習審議会等と社会教育委員の会議の相互の連携を図り、生涯学習振興の観点から、社会教育行政を推進する必要があること。

一 社会教育委員及び同委員の会議の職務、会議の運営等

社会教育委員制度は、社会教育行政に広く地域の意見等を反映させるため、教育委員会の諮問機関として設けられた制度であり、社会教育委員及び同委員の会議の責務と役割が十分に果たされるため、次の点に留意する必要があること。

記

重ねて寄付金の募集にご理解を

本会の事業推進につきましていろいろのご協力とご支援を賜りまことに有難うございます。

お陰様をもちまして、本会も発足30年の節目を迎えることになりました。

既に都道府県・指定都市の社会教育委員連絡協議会会長を通して文書等で、また「募金趣意書」を配布する等基本金募集についてご理解を深めていただけたかと思いますが、ここに重ねてご協力をお願い申し上げます。

今から約10年前、社団法人全国社会教育委員連合として文部大臣より認可されました時に、本会の財政基盤をより強固にしてゆくよう条件づけられております。その後も機会あるごとに、社会教育委員は在任中に一回に限り金千円の寄付金をお願いしてきたわけですが、この10年間の時代の変化、物価の上昇、募金に対する取組み方、趣旨の不徹底等々が重なり、従来の募金方法では限界に達し、これを取り止めて新たな構想で取り組まなければならぬ状況になったわけです。

このために、平成3年7月に財政対策委員会を発足させて検討を続けて、その原案をもとに、本年五月に開催されました第一回総会において更に慎重なる審議の結果が、新しく基本金増強のための寄付金の募集としてスタート

したことになったわけでございます。

社団法人全国社会教育委員連合は30年間の基盤の上に、名実ともに自主団体としての財政的基礎を確立して、さらに一層の飛躍を期する機会と考えられます。

次に募金について要点のみを申し上げます。

一、募金額 六、三〇〇万円

当法人の基本金を最低一億円とする。なお現在までの募金額の総額は、三、七〇〇万円である。

一、募金期間 平成4年度、平成5年度の2カ年とする。

一、募金対象 都道府県・指定都市の社会教育委員連絡協議会に平成4年度、および5年度の在任中の社会教育委員に対し、任期中一回限りの寄付をお願いする。

一、募金目標額 都道府県・指定都市別の目標額は、一億円を三八、四四七人（平成3年10月現在の全国の社会教育委員総数）で割り、それに貴県・指定都市別の社会教育委員数を乗じて、この数字から、貴県・市別の既納寄付金額を引いた額が貴県市の募金目標額になり、その目標額を都道府県・指定都市の連絡協議会長が取りまとめます。

募金趣意書

本会は昭和三十八年五月に全国社会教育委員連絡協議会として発足し、二十年後の昭和五十八年九月に文部大臣より社団法人の設立を許可され、以来、全国三万八千名の社会教育委員の連絡を密にし、相互の向上にため、わが国の社会教育の振興に努力してまいりました。

なお、法人設立に当たり、昭和五十一年に、本会の財政基盤を強固にして活動をより活発にするために、社会教育委員自らの寄付による基本金を積立て、その利子収入をもって活動経費の一部を補うことと定め、寄付金の募集を開始いたしました。以来十五年、平成四年三月末現在、この基本金は三千六百八十八万円に達しました。

しかるに、法人設立当時と現在とでは金利の低下、人件費、物価の上昇等に加えて、国の補助金も年毎に減額が続き、全国大会の運営にも支障をきたす状態にあります。国に自立を促されるまでもなく、自主的団体としての活動を続け、さらに社会教育委員の地位向上を図るためには、基本金を一億円へと増強し、本会の財政基盤を強化する必要があると、平成四年五月の総会においてご決定いただきました。

基本金一億円への目標達成のためには、新たに六千三百万円を募金目標額とし、平成四年度および五年度の二年間にわたり、任期中一回限りの募金を再度全国の社会教育委員の皆様方をお願いすることとなりました。

増額された基本金による収入は、全国および地区社会教育研究大会の経費の増額、会報の充実、社会教育委員活動状況調査などの実施により、会員の資質および地位向上のための事業充実を図る所存であります。

社会教育委員の皆様方のご賛同とご協力を心からお願ひ申し上げます。

平成四年七月

社団法人 全国社会教育委員連合

会長 天城 勲

北から南から

関プロ山梨大会の準備を急ぐ

遠藤 忠

十年に一度の当番がめぐってきて、平成四年度関プロ社会教育委員研究会を山梨県で開催することになるや、前年度の鬼怒川大会には山梨県から例年の二倍をこえる一五五名が参加する。「栃木の次は山梨だ！」の思いがみんなにみなぎっている。

交通や宿泊の便、全体会場、分科会場と意思をめぐらすと、開催地としてまず石和（いさわ）町が浮かんでくる。フルーツと出で湯のまち、歴史のふるさとでもあり、それに県内では生涯学習の先進地でもある。

「よし、ここだ！」とハラを決め、昨年七月下旬、事務局の氏原、乙黒両氏と石和町教育委員会を訪問、杉原教育長さん羽中田社会教育課長さんにお会いして、ことの次第をお願いする。

とくに教育長さんは過去にここで開かれた各種大会の事例をあげ、あれこれと指示してくださる。次いで十一月初旬にはやはり石和町役場を訪問教育長さんを通して事務局からの中沢課長さ

んを先頭に石和町長さんにお目にかかりお願いごとをする。石原昭夫町長さんの名刺の裏には「スコレー都市・石和」町民参加の理想郷と書いてある。十月中旬、全国高知大会が終るのをまっけて県社教委連理事さん各教育事務所（準備委員会）を設け、事務局の先生がたの指導のもと、毎月委員会を開いている。「総務」「研究」「編集」「集会渉外」の四部会を置き、目標を定め、本格的な作業に移っている。

年度が新しくなり六月初旬からは、いままでの準備委員会を拡大して「拡大実行委員会」としその人数は五〇名をこえている。しかし前年度末の人事異動で、事務局の先生がたをはじめ委員さんがたも数多く交替してしまっている。折角積みあげてきた計画も話し合いも振り出しに戻った感があり当惑している。

最も難渋しているのは大会経費のことで諸経費増大の折から、趣意書をつくって各企業やこの道の先輩に向かい広告料や賛助金の協力をお願いしようとしている。割り当てられた目標額を達成できるかどうか、会議の席上委員さんがたは心配そうに曇った顔をしている。

「あなた、もらえるアテがある？いいんだよ、出来るだけの努力をしてくれれば……」と暗い顔の人をその場では激励している……。

（山梨県社会教育委員連絡協議会長）

新学力観から見た「知っている」という意味

舟橋 明男

先日「学校保健」という名称の入った学会に参加した。そこで、このような発表をきいた。

中学生を対象に、口腔衛生に関するいろいろな質問をして、その結果をクロス集計をしたり、カイ自乗検定をしたりして、明らかにしたことを手際よくまとめた発表だった。

全体としてはよかつた中で、ちょっと気になったことは「歯ぐきの病気で、知っているものに〇印」をつけさせ、「歯肉炎が何%、歯周炎が何%、歯そうのうろうが何%」で終わっている点であった。

私の考えでは「知っている」といっても、これでは名称や用語だけを知っているにすぎない。もし、教師側がその認識だと、テストの問題も次のようになるだろう。「次の中から歯科疾患でないもの一つを選んで、その記号を〇で囲め」。かと思えば「左の用語群と関連の深い事項を右群より選んで、線で結べ」式になる。

このような例は現在の学校教育でのテスト問題では多く見られる。日本歴史のテストで、「一六〇〇年」と「関

ヶ原の戦い」を線で結んだり、空欄に入れたりしたことはないだろうか。そんなテストに高い点数をとるためには、できるだけ多くの年号と事項を歌にしても覚えなくてはならない。

これからの生涯学習社会における学校教育では、このような「知っている」は次第になくしたいものだ。最初の歯科の例ならば、「用語」として「歯科疾患名」だけでなく、次の三つの内容が必要なのではないだろうか。

一つめは、どのような順序で、それが起こるのかというメカニズム。
二つめは、それを予防するには、どのようにしたらよいのか。
三つめは、その予防策を実行して、自分に適した方法を見つけている。
中学生であるならば、この三つについてたずねられたら、答えられることをもって「知っている」といってもよいのではないだろうか。アンケートやテストはそれがわかるように、組み立てて欲しいと思う。

更に、上の三つを学習する方法も、教師の一方的な説明はやめたい。今回の学校週五日制にかかわって、新学力観が提案されているように、児童や生徒がなによりも自主的でありたいものである。

指導者はその援助者や助言者でありたい。この文を「でなければならぬ」「に倣うことである」「を続けていき」と書き改める日がくるのは早い。
（高知県社会教育委員連絡協議会長）

心のかよう町づくりと生涯教育

置本 庄司

大和路は、今まさに緑に満ち溢れています。「燦々、菁々、滾々」は、緑と光と水に恵まれた自然を守る厳しい政治姿勢を示す本県のキャッチフレーズで素晴らしい郷土讃歌でもあります。

その大和平野のほぼ中央に位置するわが町でよくみかける風景は、その恵まれた自然の中でゲートボールに興じる高齢者の集りです。これは、高齢者が集まるコミュニティがなお存在することを示す証拠です。

かつては、近隣社会の絆はかなり強固なものでした。その中には濃厚な人間関係もありましたし、近隣づきあいや家族の生活を維持発展させる条件でもありました。しかし、最近では、近隣の人間関係はすっかり様変わりし、物質的な豊かさや、都市化の波の中で生活共同体としての近隣の絆は、かなりゆるやかなものになってきました。

私たちの幸せは、単に物質的な豊かさだけで求められるものではなく、お互いが理解しあい支えあう心の豊かさも大切です。そして、それを実現するため、多くの人たちと心身の共生を願うコミュニティ社会の創造こそが、

「心のかよう生き生きとしたまちづくり」の目標であり、明日の生涯教育の課題であります。

本県でも人口の都市部への集中と、農山村部の過疎化が進行するなかで、地域社会も大きく変貌し、ゲートボールを楽しむ高齢者の姿さえないコミュニティを欠く地域さえあるようです。特に地域住民の連帯感や地域の教育力がより一層重要となり、地域社会の活性化をめざした社会教育活動が求められてきました。

私たちの町では、恵まれた自然と豊かな文化遺産を生かし「心豊かで住みよいまちづくり」のため「広く豊かな心を育てよう」(笑顔なら)——「明るくあいさつを交そう」をモットーに住民一人ひとりの自覚と実践によって「あいさつ」を生活の中に定着させ、一助としています。

町では、「生涯学習モデル市町村事業」を進めています。その活動を通じて、地域の中で孤立しないよう近隣の人びとと相互依存関係を保つよう心がけたり、同じ立場のものが手をつなぐ組織づくりや、よい意味での井戸端会議の復活等の新しい試みも生れてきました。また、相互理解のための心づかいの大切さも認識されてきたようです。こうして芽ばえてきた近隣社会の絆が新しい意味をもって築かれることを願っています。

(奈良県社会教育委員連絡協議会長)

平成四年八月

民間社会教育活動等の振興に関する要望

自民党文教部会 殿
文教制度調査会 殿

一、要 旨

我が国が、二十一世紀に向けて創造的で活力のある社会を築いていくためには、生涯学習社会への移行を図ることが極めて重要であります。生涯学習推進のための基盤整備に当たって、生涯の各時期において、多様な学習機会を提供する社会教育の果たす役割は極めて重要であり、そのためには、民間の活力を活かした社会教育活動の振興、指導者の養成・確保、社会教育施設の整備及び学習機会の充実など各般にわたる、総合的な整備を図ることが肝要であります。つきましては、次の事項について、格別の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

二、要望事項

- (一) 民間社会教育活動振興費補助金の充実
 - (二) 民間社会教育関係団体に対する補助
 - (三) 社会教育指導体制の整備(社会教育指導事業制度の堅持等)
 - (四) 社会教育施設等の整備充実(生涯学習推進センター、公民館、図書館、博物館等)
- 生涯学習推進のための施策としての社会教育事業の実施に必要な経費の拡充
(人々の多様な学習機会等の整備)

〈実践社会教育シリーズ〉好評発売中

企業と生涯学習

湯上二郎 編 1,030円 千210

女性の生涯学習

志熊敦子 編 1,030円 千210

生涯教育の理念と方法

森 隆夫 編 1,030円 千210

地域振興と生涯学習

日高幸男・渡辺博史 編 1,200円 千260

生涯学習を振興するための行政

井内慶次郎 編 1,450円 千260

財団法人 全日本社会教育連合会

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3国立教育会館内
TEL 03-3580-0608, 2869・振替(東京)0-178735

事務局だより

▼平成4年度第一回総会終る

平成4年度第一回総会・理事会が次の通り開催されて、決算、事業、予算等がそれぞれ承認、可決されました。

日時 平成4年5月20日(水)

理事会 10時30分～12時

総会 13時30分～15時30分

会場 東京青山会館おとろ

総会は正会員数59名中出席者33名、委任状による出席者23名で計56名。

定刻に司会者より開会を宣し、天城会長の挨拶、小杉山専務理事より経過報告を行い、次に、議長に竹下哲氏

(長崎県会長)を選出し、議事録署名人として片居木清一氏(埼玉県会長)

と新城紀秀氏(沖縄県会長)が指名され議事の審議に入った。

議事の審議の経過

第1号議案 新しい寄付金のあり方

平津昭知理事(財政対策委員長)より、財政対策委員会における審議内容の説明があり、さらに小杉山専務理事より補足説明が行なわれ、慎重に審議された結果、原案を一部修正の上、承認、可決された。

第2号議案 平成3年度事業決算報告

長田事務局長、田辺次長よりそれぞれ報告があり、いずれも異議なく承認。

第3号議案 平成3年度監査報告

金子安平監事より適正に収支されて

いるとの報告があり、異議なく承認。第4号議案 平成4年度事業計画案・収支予算案について

長田事務局長、田辺次長よりそれぞれ説明があり、全員異議なく承認。

第5号議案 第34回全国大会開催要項案について

平津昭知千葉県会長より、開催要項案について詳細に説明があり承認。

第6号議案 第35回(平成5年度)全国社会教育研究大会開催県について

宮原久佐賀県会長より、佐賀県において開催する旨発表があり、満場一致で賛成し承認された。

第7号議案 政令指定都市・千葉市社会教育委員会の新規加入について

全員異議なく賛成。平野馨議長挨拶。

訃報・野尻哲 大分県会長・逝去

昭和58年より大分県社会教育委員連絡協議会会長として、本会の発展に尽力され、本会理事として重責を果たされていきました野尻哲会長が、脳動脈瘤破裂で急逝されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成4年5月24日逝去(79歳)

▼県・指定都市の会長に就任
青森県 村田志朗・神奈川県 湯上二郎・東京都 岸悦男・静岡県 塩澤實藏・愛知県 市川光雄・徳島県 富士貴志夫・札幌市 土橋信男・千葉市 平野馨・北九州市 藤本新二。(敬称略)

第18回 ヨーロッパ社会教育視察団 参加者募集

本会は昭和50年度より毎年社会教育委員、教育委員、社会教育行政職員、社会教育団体会員等のためにヨーロッパ諸国の社会教育事情の視察団を編成し、実施してまいりました。

本年度も第18回ヨーロッパ社会教育事情の視察を実施いたしますので、この趣旨にご賛同の方のご参加をおすすめいたします。

- 目的 ヨーロッパ各地の社会教育施設を見学して、その活動状況を視察する。さらに各国の著名なる建造物、史跡等を巡り歴史を学ぶ。
- 期間 平成4年11月16日(月)～11月27日(金) (12日間)
- 旅程 東京→ウィーン(1泊)→プラハ(2泊)→ミュンヘン(2泊)→ハイデルベルグ(1泊)→ボン(2泊)→パリ(2泊)→東京
- 主要視察先 ① プラハ＝カレル橋、プラハ城、聖ニコラス教会、旧市街、ユダヤ人墓地、プラハ市教育委員会、成人学校
② ミュンヘン＝ガスタイク文化センター、健康公園
③ ハイデルベルグ＝ネッカー川、ハイデルベルグ城、学生牢
④ ボン＝ライン河、ドイツ成人教育協会
⑤ パリ＝ノートルダム寺院、ルーブル博物館、凱旋門、コンコルド広場
- 経費 568,000円(全朝食付、ベテラン添乗員が全行程御案内致します。)
社会教育委員の方には、本会から20,000円の助成金があります。
- 募集人員 20名(定員になり次第締め切ります) 〆切 10月16日(金)
- 応募方法 はがきて全国社会教育連合へお申込み願います。なお詳細なことを知りたい方はご連絡下さい。詳細資料を委員宛お送り致します。
- 旅行乗務 旅行に関する一切の業務に近畿日本ツーリスト(株)の門海外旅行支店が担当します。
- 連絡申込先 〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-2-3 国立教育会館内

(社)全国社会教育委員会 TEL (03) 3580-0608